

第1回小中学校の教育環境の改善・向上に関する有識者会議 議事要旨

1. 日 時：令和4年3月1日（火）10時～11時45分
2. 場 所：神戸市総合教育センター 706 研修室
3. 議事要旨：教育環境を改善するための取り組みという視点から、特に学校規模の適正化とICTの活用について多くの意見をいただいた。

○学校規模の適正化について

- ・区によって状況は異なるが、旧市街地では多くの学校で小規模化が進んでいる。さらに人口減少が進めば、学校統合という難しい課題に取り組まなければならない。
- ・市街地と農村では状況が異なるため、学校規模の標準化だけを検討するのではなく、地域の特色を生かした方策についての検討も必要。
- ・小規模特認校や義務教育学校化など農村地域の小規模校対策は、通学手段を確保しなければ進めることが難しい。
- ・農村地域とニュータウンの両方がある区では、いずれも学校の小規模化が進んでいるが、背景や事情はそれぞれ大きく異なる。特に農村地域は校区が広くて通学が大変と聞く。路線バスなど交通機関の充実が必要。
- ・他自治体の事例では、統合によって校区の広がりとともにネットワークも広がり、地域だけでなく、地元企業からも協力を得られるなど、多くのサポートを受けられるようになったという学校がある。
- ・農村地域で統合が難しい小規模校は、学園制（中学校に加配措置した教員による小学校高学年への専科指導等により、義務教育9年間を通じた一体的な教育活動を実施）の活用などにより魅力化を図りながら維持していくことが考えられる。

○ICTを活用した学びの展開について

- ・ICTを活用した学びを展開すれば、オンラインでつながることにより、学校規模にとらわれなくてもよくなる。
- ・不登校の子供の学びをオンライン学習により保障したり、行きたい学校に行けるようにしたり、より柔軟な学びのスタイルを考えてもよいと思う。
- ・従来型の学校観・教育観にとらわれず、GIGAスクール構想とセットで、対面・遠隔・双方のハイブリッドといった方法を検討し、通わなければならないわけではない「神戸式」とも言える新たな学校づくりを考えていく必要がある。

○その他

- ・学校がコミュニティスクールとなっていく中、地域の学びの場という視点からも、学校のあり方について地域と一緒に考えていくことが必要。
- ・学校でこども食堂を運営できるようにするなど、学校が子供の学び・遊び・生活の全般に、地域とともに関われるようになることを望む。
- ・地域活動の観点からは、ふれあいのまちづくり協議会の組織単位は従来の小学校区のままのため、学校を中心とした地域活動に配慮が必要。
- ・教育環境の改善の検討にあたっては、教育と福祉の連携なども含めて、地域資源を活用した学校づくり・地域づくりを意識すべき。
- ・統合した学校では改修後のきれいな校舎を使用し、旧校舎は地域で有効活用することは、学校がなくなってしまう地域の人には意味のあることだと思う。
- ・学校以外の公共施設との複合施設化により、地域の中で異世代交流ができる場になるという可能性は考えられる。